

実践事例発表レジュメ

研修・研究事業名	社会教育特講
実践事例名(テーマ)	生涯学習をめぐる新しい動向 ～地域学校協働活動の実際～
事業主体(実施機関)	徳島県 佐那河内村 村育(むらいく)推進協議会
連携・協力機関等	
発表者	日下 輝彦

期日 平成30年 8月 16日

内 容

徳島県で唯一の村となった佐那河内村は、人口わずか2400人あまりの中山間地域である。名中・常会・講中といった、村のコミュニティー文化が今もあり、村民のつながりは深い地域である。小中学校の児童生徒数は、小学校82名、中学校54名である。佐那河内小中学校は、小中一体型の校舎で、平成30年4月より小中一貫教育をスタートさせている。

このような教育環境のもとで、佐那河内村の子供たちは、クラスだけでなく学年を超えた縦のつながりも深く、いわゆる中1ギャップもほとんどみられず、豊かな自然に囲まれてのびのびと育っている。ただ、その一方で、時代とともに、子供たちが自然の中で遊び学ぶ機会が減っており、佐那河内村への関心よりも、都会で暮らすことを理想と考える子供が増えている。また、同じクラスの仲間と9年間すごし、小学生から中学生まで先輩後輩関係なく兄弟のように学校生活を送るため、新しい環境に対する適応力があまり高くなく、自尊心も高いとはいえず、高1ギャップに悩む子供も少なくない。

佐那河内村では、村だからこそできる教育と、村だからこそやらなければならない教育を考え、国際感覚豊かな視野と知識を持ちながら地域社会で活動する『グローバルに生きる力』を育む教育環境づくりと、佐那河内村を活かした特色ある教育活動の支援を目的とする村育(むらいく)推進協議会を、村の教育に関わる者を中心に立ち上げた。

本講義では、村育(むらいく)推進協議会の活動内容を通して、なぜ地域と学校との連携・協働なのか、その活動の中で得られた成果および課題を発表する。